

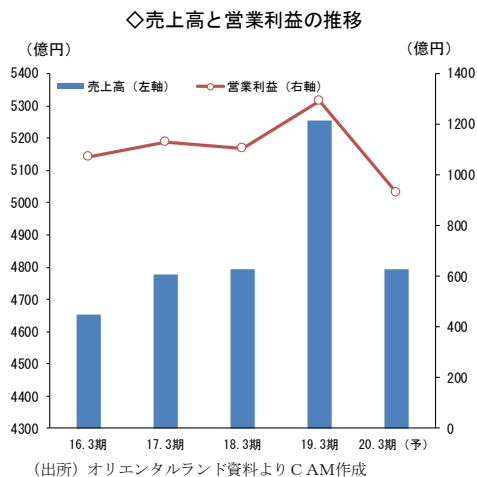
企業ニュース オリエンタルランド

(東証1部: 4661) <http://www.olc.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

新アトラクションの集客効果に期待

テーマパークの東京ディズニーリゾートや、周辺のホテル・商業施設などを運営している。20.3期・第1四半期(4-6月)の売上高構成比は、テーマパーク83%、ホテル14%、その他3%。20.3期は、前期の東京ディズニーリゾート35周年イベントの反動で入園者数が減少すると予想されているが、第1四半期は前年同期を上回って推移しており、好調さを維持した。7月23日には、東京ディズニーシーの新アトラクション「ソアリン：ファンタステック・フライト」が開業し、集客に寄与している模様。また、2020年春には東京ディズニーランドにおいて新アトラクションや屋内シアターの開業を控えており、今後の集客効果が期待されよう。



第1四半期は入園者数の増加で営業増益を確保

20.3期・第1四半期(4-6月)の連結業績は、売上高が1,206億円、前年同期比微減、営業利益が319億円、同7%増。主力のテーマパーク事業は、売上高が同0.5%減、営業利益が同7.2%増。入園者数はスペシャルイベントや大型連休などの効果で増加したが、入園者1人当たりの売上高が減少し、減収となった。利益面では、商品や飲食の原価率が改善したことや、前期の大型イベントの費用を含む諸経費が減少したことで増益を確保した。

20.3期の通期会社計画は、売上高が4,792億円、前期比9%減、営業利益が929億円、同28%減。第1四半期は、入園者数が想定を大きく上回ったことで売上高、営業利益ともに計画を上回ったが、テーマパーク事業の入園者数のボリュームゾーンが第2四半期以降であることを踏まえて、上期および通期の計画は据え置いた。テーマパーク事業は、売上高が同9%減、営業利益が同29%減の計画。入園者数は3,000万人、同8%減を想定しているが、第1四半期の実績を勘案すると保守的な印象であり、上振れ余地があろう。

[株価動向・投資判断]

新アトラクションの集客効果などで入園者数が増加しており、中長期での成長が見込まれる。株価の上昇基調は続こう。

<4661 OLC 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	479,280 (0)	110,285 (▲ 3)	111,660 (▲ 3)	81,191 (▲ 1)	246.7	40.00
19.3	525,622 (10)	129,278 (17)	129,439 (16)	90,286 (11)	274.7	42.00
20.3 予	479,240 (▲ 9)	92,940 (▲ 28)	93,880 (▲ 28)	65,300 (▲ 28)	198.6	44.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価(2019/8/5)	14,525 円
年初来高値(高値日)	14,735 円(19/8/1)
同 安値(安値日)	10,765 円(19/1/28)
予想 P E R (20.3 予)	73.1 倍
1株株主資本(PBR算出用)	2,483.0 円
P B R	5.85 倍
予想配当利回り	0.30 %
(1株当たり配当金年44.00円)	
R O E (19.3)	11.8 %
発行済み株式数	36,369 万株